

モザンビーク共和国月報（2020年2月）

主な出来事

【内政】

- モザンビーク政府，州国務長官の権限の限界を承認
- マルセリーノ・ドス・サントス氏死去
- モザンビーク治安情勢（ニアッサ州で襲撃事件が発生）
- 非開示債問題（モザンビーク政府がIMFへ要請を提出）
- モザンビーク治安情勢（内務大臣がカーボデルガード州の状況を「深刻」と発言）

【外交】

- ロザリーオ首相のエチオピア訪問
- ノルウェー皇太子のモザンビーク訪問
- 仏モザンビーク海洋協力
- フィンランド開発・通商大臣がモザンビーク訪問

【経済】

- 特になし

【内政】

モザンビーク政府，州国務長官の権限の限界を承認

モザンビーク政府は，州国務長官の権限の範囲につき承認した。州国務長官の仕事として，下記の州サービスが定められた。

1. 経済活動
2. インフラ
3. 司法
4. 環境
5. 社会活動

上記に挙げられる州サービスの担当局長は，州国務長官と相談の上，政府によって指名される。彼らは，州国務長官・州国務長官室ディレクターで構成される州サービス代表委員会の中で働く。

州国務長官の権限の範囲は定められたが，全ての疑問が解決した訳ではない。たとえば，州サービスのインフラにつき，どの分野のインフラが対象になるのか明確ではない。法律によると，市町村・州の道路や橋における公共サービスの提供は州政府の権限の元で行われるとされている。

（2月5日付け，カルタ・デ・モザンビーク電子版）

マルセリーノ・ドス・サントス氏死去

2月11日、フレリモ党の創設者の一人であるマルセリーノ・ドス・サントス氏が90歳で死去した。これを受け、ニュシ大統領は声明を発表し、「モザンビークの象徴であるサントス氏が死去した。同氏は、国民的な英雄であったが、このような形で英雄と発表することは望んでいなかった」と話した。

サントス氏は、モザンビーク独立時のフレリモ党の副党首であり、モザンビーク議会が設立された1977年まで計画・開発初代大臣を務めた。その後は、1994年に多数政党による最初の選挙が行われるまで、同議長を務める等、フレリモ党の重鎮であった。

(2月11日付け、オパイース紙)

モザンビーク治安情勢 (ニアッサ州で襲撃事件が発生)

警察の情報によると、2月12日、15時ごろより武装した正体不明の集団がニアッサ州メクラ郡にある村を襲撃した。空中に発砲して威嚇し、その後、家屋に放火した手口はカーボデルガード州における襲撃と同じ手口である。

治安部隊が犯行グループを追跡し、双方の撃ち合いにより、犯人側8人が死亡し、15人が負傷した。治安当局は、事態は沈静化していると発表した。モザンビーク警察のニアッサ州報道官であるマテ氏は、上記襲撃が事実であることを認めるとともに、全ての武装集団の解体を行うと発表した。

なお昨年、ラファエル警察総司令官は、メクラ郡の何人かの青年がカーボデルガード州の中部及び北部で暴力行為を行っている集団からリクルートされているという状況は注意しなければならない旨述べている。また同総司令官によると、リクルート活動には、現在指名手配中のタンザニア人アミッセ・バカールが関与しており、メクラ郡はニアッサ国立自然保護区を荒らす密猟者の回廊になっている由。

(2月17日付け、カルタ・デ・モザンビーク電子版)

非開示債問題 (モザンビーク政府がIMFへ要請を提出)

モザンビーク政府は、IMFに対して、国家予算のサポートの再開に向けた技術チームの派遣を正式に要求するレターを提出。マレイアーネ経済財務大臣は、モザンビークとIMF間の交渉が上手くいったということの意味していると話した。

マレイアーネ大臣は、国家予算につき、農業・教育・保健サービス分野への支出を約束した。地方分権も重要なテーマである。政府は、ビジネスコミュニティの発展に寄与するイニシアティブを進めており、それが叶えば、質の高いサービスを提供するために十分な税収があると期待している。国家予算は、4月に国会で承認される予定。

(2月24日付け、ノティシマス紙)

モザンビーク治安情勢 (内務大臣がカーボデルガード州の状況を「深刻」と発言)

ミキダーデ内務大臣は、アンゴラのルアンダで行われた記者会見で、モザンビーク北部のカーボデルガード州で相次いでいるテロ攻撃を「深刻な事態」と認め、武装勢力の正体は判明していないと話した。「我々は、彼らが何を目的としているのか分からないが、無実の住民を殺害し、村を焼き払ったり、病院を襲う背景には、何か理由があるはずだ」と発言。

ミキダーデ大臣は、ニュシ大統領特使としてロレンソ・アンゴラ大統領を表敬訪問している。今回のアンゴラ訪問は、モザンビーク政府として、防衛分野での協力を緊密にしていきたいという意図がある。

深刻な事態と認めつつも、ミキダーデ大臣は、襲撃により影響を受けている地域については、軍の管理下にあると主張した。ニュシ大統領の先週の発言に同調し、武装勢力は国内外から金銭的な援助を受けており、最新鋭の武器を有していると発言した。

(2月25日付け, AIM 電子版)

【外交】

ロザリーオ首相のエチオピア訪問

ロザリーオ首相は、33回 AU 首脳会談に出席するためアディスアベバを訪問。同首相のエチオピア訪問には、マカモ外務協力大臣、ミキダーデ内務大臣が同行している。

(2月9日付け, ラジオモザンビーク電子版)

ノルウェー皇太子のモザンビーク訪問

マグノ・ノルウェー皇太子は、3日間の日程でモザンビークを訪問。大統領府によると、同皇太子の訪問は、友好関係を促進し、政治・経済・社会協力を進める他、2国間で既に実施している協力プログラムの評価を行う機会となった。2018年11月のニュシ大統領の訪問を受け、同皇太子の訪問が実現した。

(2月12日付け, ラジオモザンビーク電子版)

仏モザンビーク海洋協力

フランス海軍は、薬物の密輸やモザンビーク海岸部での違法漁業の取締りのため、教育・訓練の分野においてモザンビーク海軍をサポートする。フランス海軍の軍艦が4日間の公式訪問のため、マプト沖に停泊している。

(2月10日付け, ラジオモザンビーク電子版)

フィンランド開発・通商大臣がモザンビーク訪問

2月26日、フィンランド開発・通商大臣が3日間の日程でモザンビークを公式訪問。同大臣は、ビアス国会議長、マカモ外務協力大臣、メスキータ商工大臣、ナマシ

ユルア教育大臣との面談のほか、CTA等のモザンビーク民間部門の代表者とラウンドテーブルを予定している。

大臣の訪問は、フィンランド・モザンビーク間の二国間関係や長期に亘る協力関係の強化が狙い。さらに、フィンランドのモザンビークでの貢献を確認し、和平プロセスへの協力の準備ができていることを表明。また、教育セクターでの協力も予定している。

(2月26日、フィンランド大使館のプレスリリース)

【経済】

主要経済指標

- ・ 名目 GDP：144.5 億米ドル（2018 年世銀）
- ・ GDP（1 人あたり）：490.1 米ドル（2018 年世銀）
- ・ GDP 成長率：3.3%（2018 年，IMF 推定）
- ・ 輸出（通関ベース）：51.9 億米ドル（2018 年中銀）
主な輸出品は，石炭，アルミニウム，電力，天然ガス，重砂，たばこ，貴金属，砂糖。
- ・ 輸入（通関ベース）：61.6 億米ドル（2018 年中銀）
主な輸入品は，機械類，ディーゼル，ボーキサイト，建築資材，自動車，電力，医薬品。
- ・ インフレ率：3.9%（2018 年通年，国家統計院）

経済関連など

マクロ経済

・ 国家統計院(INE)によると，1 月の月間インフレ率は 0.63%であった。都市別ではベイラ市が 1.49%と高いインフレを記録し，ナンプラ市とマプト市はそれぞれ 0.47%，0.40%と平均を下回った。前年 1 月比でもベイラ市は 7.63%と顕著な上昇率を示している（2/12 O País 紙）

・ モザンビーク銀行(中銀)金融政策委員会(CPMO)は，政策金利(MIMO)(12.75%)，貸出金利(15.75%)，預金金利(9.75%)，強制預託金(国内通貨 13.0%，外貨 36.0%)をそれぞれ据え置いた。(2/28 Notícias 紙, 2/28 O País 紙)

・ アフリカ開発銀行は，モザンビークの経済成長率を 2020 年は 5.8%，2021 年は 4%と予測した。(2/5 Notícias 紙)

・ スタンダードバンクの経済調査事務局は，2019 年の経済成長率も 0.2 ポイント下方修正し 2.3%とし，2020 年は 0.3 ポイント下方修正し 3.4%，2021 年は 4.1%，2024 年以降は 10%を超えると予測した。また，2020 年の公的債務は GDP 比 106.8%，2021 年は同 101.6%と予測している。(2/6 Notícias 紙, 2/6 O País 紙)

・ 国家統計院(INE)によると，モザンビークの 2019 年の経済成長は 2.2%であった。(2/18 Notícias 紙)

・ FocusEconomics は 2020 年のモザンビークの経済成長率を 4.7%，2021 年は 4.5%に減速すると予測した。(2/28 O País 紙)

1 月の PMI はわずかに改善

スタンダードバンクによると，1 月の民間企業業績(PMI)は 50.4 で，成長を示しているものの前年 12 月を下回った。新規発注の成長は減少して過去 20 か月で最低となり，生産と雇用の弱さと求人急落を招いた。また，コストの上昇にもかかわらず，販売価格も下落した。納期期間と調達ストックの改善が，PMI の下落に歯止めをかけた。(2/10 Notícias 紙)

2/10 O País 紙)

ノルウェーがオイル・ガス産業を支援

12 日、ニュシ大統領はノルウェー皇太子と会談し、終了後にヴェロニカ・マカモ外務協力大臣と Ulstein・ノルウェー国際開発大臣との間で、オイル・ガス分野での協力協定に署名された。ノルウェーにとってモザンビークはサブサハラアフリカ第 3 位の被支援国家であり、40 年以上にわたってエネルギー、ガバナンス、ブルーエコノミー、保健、ジェンダー、民間企業、和平プロセスなどを支援してきた。(2/13 O País 紙)

モザンビークの天然ガス生産は 26%まで増加

フィッチ・ソリューション社は、モザンビーク国内の天然ガス生産が 2029 年までに最大 26.5%、年平均 12.4%増加する見通しを発表した。生産量は現在の 56 億立方メートルから 450 億立方メートルに成長する見通し。サブサハラアフリカの天然ガス生産は現在の 756 億立方メートルから、2029 年までにほぼ 2 倍の 1,350 億立方メートルへと成長する。モザンビークはナイジェリアと地域市場を二分する勢力となる。(2/19 Noticias 紙)

マプト港の荷役量が増加

2019 年のマプト港の荷役取扱量が 2,100 万トンに達し、1,950 万トンであった 2018 年から 8%増加した。マプト港開発公社(MPDC)によると、コンテナターミナルの拡張とマーケティング戦略により、コンテナ取扱量は前年比 53%増の 16.2 万 TEU となった。また、2020 年には 5 月と 7 月に船着き場の改修工事の完了と、2019 年第 4 四半期から続く浚渫作業の完了、可動式クレーンなどの設備投資も予定され、荷役取扱量の更なる増加が見込まれている。(2/11 Noticias 紙)

ベイラ港バイパス道路への投資

2 月 12 日、ベイラ市でソファアラ州知事、同州国務長官出席のもと開催された官民対話フォーラムが開催され、様々な分野の地元企業家は、ベイラ港アクセスのバイパス道路の建設への投資の意思を表明した。また、地元企業家はベイラ港アクセス道路上に料金所を設置し、通行料収入を港湾設備の改修に活用することを訴えた。さらに、ベイラ市のビジネス環境改善に主体的に関与していく意向を表明した。(2/14 Noticias 紙)

世銀は人口ボーナス達成のための 7,500 万米ドルの助成金を承認

世銀は人口ボーナス達成のための国際開発協会からの 7,500 万米ドルの助成金を承認した。ランデル・世銀当地代表は、増加する労働者人口のエンパワーメント、教育、雇用と、高い人口増加率の抑制が喫緊の課題であると述べた。(2/18 O País 紙)

鉄道運賃値上げ

2月1日から、南部の旅客鉄道運賃が値上げされる。鉄道港湾公社(CFM)によるとマプト～レサノガルシア間及びマプト～ゴバ間がともに従来の20メティカルから27メティカルに、マプト～マトラガレ間は従来の7メティカルから11メティカルに、マプト～ボアネ間は7メティカルから12メティカルに、それぞれ値上げされる。マプト中央駅からの長距離線は、マプト州マグーデまで60メティカルに、マプト州マニサまでは従来の20メティカルから40メティカルに、ガザ州ショクウェまでは80メティカルから90メティカルに値上げされる。さらにガサ州コンボムーネまでは160メティカル、同州ンプシ(M'puzi)までは185メティカル、同州マパイまでは205メティカル、ジンバブエ国境のシクアラクアラまでは従来の208メティカルから240メティカルとなる。(2/1 Noticias 紙)

LAM はリスボン便就航を6月に延期

モザンビーク航空(LAM)の唯一の欧州便となるリスボン線の再就航が、3月31日から6月2日に延期となった。ポー・ジョルジェ LAM・CEO よると、延期はリスボン空港の発着枠を確保できなかったことによる。(2/26 O País 紙)

モザンビーク・中国関係

特になし

(了)